中学校　国語　　古文③　～歴史的仮名遣い②～　（解答）

（　　　）年（　　　）組（　　　）番　名前（　　　　　　　　　　　　　　）

一 次のー線部の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、すべて

　ひらがなで書きなさい。（１０点×１０問）

　⑴　　今は昔、竹取の翁と①いふものありけり。

　　　①

いうもの

点

　　　野山にまじりて竹を取りつつ、②よろづのことに③使ひけり。

　　　②　③

よろず

つかいけり

　　　名をば、さぬきのみやつこと④なむいひける。

　　　④

なんいいける

　　　　その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、

　　　筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いと⑤うつくしうてゐたり。

　　　⑤

うつくしゅうていたり

　⑵　　春はあけぼの。⑥やうやう白くなりゆく⑦山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる

　　　雲のほそくたなびきたる。

　　　⑥　⑦

ようよう

やまぎわ

　　　　夏は夜。月のころはさらなり、闇も⑧なほ、蛍の多く飛びちがひたる。

　　　また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

　　　⑧

なお

　　　　秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと⑨近うなりたるに、烏の寝どころへ行く

　　　とて、三つ四つ、二つ三つなど、⑩飛びいそぐさへあはれなり。まいて雁などの

　　　つらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音

　　　など、はた言ふべきにあらず。

　　　⑨

ちこうなりたるに

　　　⑩

とびいそぐさえあわれなり